

一人じゃ子育てできっこない

谷野則文

7月には本当に暑い日が続きましたね。そんな中園では「お泊り保育」が行われました。卒園して小学生になってからも、「思い出に残っている出来事」として必ずと言っていいほど名前が挙がるイベントです。今月の5歳児（ぞう組）のページに様子を載せていますので、小さなクラスの保護者の方も「うちの子も大きくなったらこんな体験をするんだなあ」と楽しみにご覧ください。

さて、7月25日（土）に開催した「語る会」（後ページにてご報告）についてですが、そこで私が印象的に思ったキーワードは「一人じゃ子育てできっこない」という言葉でした。これを聞いて、私自身も自分の子育てを振り返りました。私は細かいことにはこだわらないタイプでしたが、思春期を迎えた子どもとの距離感に悩んだとき、保育所時代に知り合った保護者仲間はずいぶん助けられた思い出があります。

確か長男が小学6年生の頃のことです。学校から帰ってきた息子がひどく泣いていました。そっと声をかけても何も語らず、「放っておいて」という無言のオーラです。学校に電話しようか悩んだ末、ふと、同じクラスだった保育所時代の保護者仲間に相談してみました。すると、「そうなん？ じゃあ、うちの子に聞いてあげるからちょっと待ってて！」と言ってきて、10分後に折り返しの電話がありました。「あのね、うちの子にY（うちの息子）のこと聞いたら、『Yは学校で友達になんか言われたり、なんかするような奴じゃない。だから何かあったとして、それを親に言わへんのやったら、親は黙っといたらいい。放っておいてやって』って。たにやんも心配かしらんけど、そっとしとくのがいいかもしれないね」と教えてくれたのです。まさかそんな返答が来るとは思いもよらず、「なるほど、時には黙っておくほうがいいのかもかもしれないな…」とハッとさせられました。結局その後、妻とも話をして「黙ってそっとしておこう」と決めることができました。

保育園時代は毎日の送迎や、日常的に子どもの情報はすぐに入ってくることが多いです。しかし、小学校にあがると途端にそれが見えなくなります。だからこそ、保育所時代の保護者仲間の存在は、ずっと昔から我が子のことを知ってくれている、そして親だけでは気づけない子どもたちの情報を伝えてくれる貴重な存在だと実感します。子どものために親としてできる心の準備をいくら積み上げたとしても、一人の親、一つの家族だけでは限界があるのではないかと思います。「一人で子育てできっこないんだ」と自分の視野を広げる意味も含めて、同じ保護者仲間に打ち明けてみる関係性を意識してみてもはどうでしょう。つばさ共同保育園では「クラス懇談会」や「語る会」、その他日常のありとあらゆる場面でそんなきっかけになる場をたくさん用意しています。ぜひ活用してください。

余談ですが、我が子の今を見つめてみると、20年前一緒にお泊り保育を過ごした友達数人は、大人になった今でも時々連絡を取り合い関係が続いています。先日は買ったばかりの誰かの車で一泊旅行に出かけたりしているようです。今年のぞう組15人の子どもたちも、大きくなって「あの頃お泊り保育したなあ」と思い出話をしてくれたりするのかな？これから続く、友達との関係を大切に見守っていきたいですね。今回語る会に参加された保護者の方からも、率直な実体験からくるメッセージを頂きました。そのままの形で紹介させていただきます。ぜひ、次の「語る会」にはもっと大勢の参加者を迎えて、クラスを超えた繋がりづくりのきっかけにできればと思います。

【お知らせ】 第58回全国保育園団体合同研究集会

8月22日（土）～24日（月）にかけて、第58回全国保育園団体合同研究集会が兵庫県で開催されます。昨年のつばさ共同保育園の実践報告から、23日（日）に以下の発表をします。

大野京子・山本真梨子より 「2歳児の保育：子どもも大人も違うが当たり前」

山本佐名絵・藤原裕加子より「子どもの発達と給食：こどもの日常にある食育とは」

ちいさいなかまシンポジウム「保育、『失敗』しちゃいけない？」 清水玲子&保育者（前川良太）

興味のある方は資料などありますので、事務室までお気軽に声をかけてください。